

2024年12月12日

報道各社 御中

全国農業協同組合連合会三重県本部（JA全農みえ）



県育成の新品種「うた乃」も出品予定 「第38回三重県いちご共進会」を開催 ～出荷ピークを迎え、消費拡大をPR～



三重県園芸振興協会（事務局＝JA全農みえ営農対策部）は、本県の代表的な園芸特産物のひとつ、イチゴの出来栄を競う「第38回三重県いちご共進会」を開きます。

本共進会は、栽培技術の向上により消費者が望む高品質でおいしいイチゴ生産を推進し、消費拡大をはかることを目的とし、クリスマスや年末年始の需要期を前に、出荷ピークを迎える時期に開催しています。

会場には県内産地から100点以上のイチゴが集まります。今年産から本格的な栽培・出荷販売が始まった県育成の新品種「うた乃（の）」も出品予定です。

県中央農業改良普及センターや県農業研究所、県内卸売市場の関係者による審査員が、果実の外観や食味を評価し、最高位の農林水産大臣賞をはじめとする各賞を決定します。

この取り組みのようすをぜひご取材いただきたく、下記のとおりご案内申し上げます。

記

◆と き:2024年12月19日(木) 10:00～14:00(審査)

◆ところ:JA三重ビル 5階 大会議室
津市栄町一丁目960番地

◆主 催:三重県園芸振興協会

◆事務局:JA全農みえ 営農対策部

【資料提供】

JA全農みえ（全国農業協同組合連合会 三重県本部）
管理部 企画課
津市栄町一丁目960番地 JA三重ビル
TEL 059-229-9071



↑ 共進会の審査のようす

スケジュール ※進行状況により、時間帯は前後にずれることがあります。

項目	時刻	時間(分)	内容
1次審査	10:00	80	審査員の打ち合わせ・目ぞろえの後、形や色など果実外観の審査
集計・準備	11:20	60	1次審査終了次第、集計し、2次審査の対象イチゴを決定（1次審査の上位30点程度）
2次審査	12:20	40	審査員による食味など果実内容の審査
集計・準備	13:00	30	2次審査終了次第、集計し、入賞者選考の対象イチゴを決定
審査委員会 閉会	13:30 14:00	30	審査員による入賞者選考。この間、共進会会場の公開

「三重県いちご共進会」とは

県産イチゴの栽培技術と品質の向上をはかることを目的に、三重県園芸振興協会（会長：北川俊一、事務局：JA全農みえ営農対策部）が毎年開催し、今年度で38回を数えます。

県関係機関や卸売市場などの専門家による審査をおこないます。果実の外観や内容についてのさまざまな項目を総合評価し、農林水産大臣賞をはじめとする各賞を決定します。

三重県のイチゴ概要

栽培面積	69ヘクタール（2023年産）農林水産省野菜生産出荷統計より
収穫量	1,840トン（2023年産）農林水産省野菜生産出荷統計より
栽培品種	「章姫（あきひめ）」「かおり野（の）」「紅（べに）ほっぺ」「うた乃（の）」など
産地	伊勢市、松阪市、多気郡を中心に生産
生産概要	2024年産「三重いちご」（JAグループ出荷のブランド名）は、生産者244人、31.9ヘクタールで栽培

三重県育成イチゴ品種「うた乃」

「うた乃（の）」は県農業研究所が育成し、2022年に品種登録を出願したイチゴ品種です。今年産から本格的な栽培・出荷販売が始まりました。

種子繁殖型のため病害虫伝染リスクが低いことに加え、果実の形がよく、糖度が高いことが特徴で、農家の収入確保につながる事が期待できます。

収穫開始時期が早く、11月中下旬から収穫が可能で、イチゴの重要な病害のひとつ「炭疽（たんそ）病」に対し抵抗性をもっています。

